

ハンガリーの口蹄疫清浄性復帰に伴う輸入再開に係るリスク評価報告書(概要版)

2026年3月27日
消費・安全局動物衛生課**I. 背景**

我が国は、2025年3月にハンガリーで口蹄疫(以下「FMD」:参考資料1、2)が確認されたことを受け、同国からの偶蹄類動物肉等の輸入を一時停止した。2025年9月、ハンガリー当局より同国のFMD清浄性の認定及び偶蹄類動物肉等の輸入一時停止の解除の要請があった。本要請を受け、同国から収集した情報に基づき、同国のFMD清浄性及び偶蹄類動物肉の輸入一時停止を解除した場合の我が国へのFMDの侵入リスクについて、定性的評価を実施した。

II. ハンガリーにおける動物衛生の管理体制**1. 家畜衛生当局**

ハンガリーは19県から構成される共和国制国家で、動物衛生行政は中央当局(National Food Chain Safety Office; NFCSO)、県(County)、地区(District)レベルの三層構造を基盤として編成されている。

2. 診断体制

診断体制は、疑似患畜の発生時に公的獣医師が検体を採取し、首都ブタペストに所在する国家レファレンスラボラトリー(NRL)に送付することを基本とする。NRLはWOAH及び欧州連合(EU)の基準に準拠した検査を実施する。

3. 法制度

ハンガリーにおけるFMD対策は、FMDを含む動物疾病管理の法的基盤を提供するEU法「動物衛生法(AHL)」を基本法として、これを補完・具体化する複数の欧州委員会委任規則及び実施規則が制度を構成し、国内法が地域の実情に応じた運用面の枠組みとして整備されている。

4. 偶蹄類動物及びそれらの由来製品のトレーサビリティ

家畜の個体識別及び移動履歴情報がEUの電子認証・情報交換プラットフォームと連携されており、動物や動物由来製品の一貫した追跡管理体制が整備されている。

III. ハンガリーにおけるFMD発生及び当局の対応**1. FMD発生と防疫措置**

2025年3月6日から4月17日にかけて、ハンガリー北西部のジュール・モション・ショプロン県の酪農場において、同国で約50年ぶりとなるFMD発生が計5件確認された。

1例目の発生農場では飼養される感受性動物の全頭殺処分が遅滞なく実施され、2～5例目の発生農場においては、ウイルス拡散を防止するためのFMDワクチン緊急接種後、感受性動物の全頭殺処分が実施された。また、各発生農場を中心とした制限区域(発生施設から半径3kmの保護区域、半径10kmの監視区域から構成。)が設定され、また、発生県及びその隣接県に追加制限区域が設定された(図1)。これらの制限区域内において、2025年7月20日(最終発生から3か月)に制限区域が解除されるまでの間、感受性動物及びそれらの由来製品の移動制限措置及びサーベイランスが講じられた。

2. FMDサーベイランス及び疫学調査結果

飼養感受性動物については保護区域及び監視区域内に所在する全ての農場において検査が実施された。また、保護区域及び監視区域以外に所在する農場については、発生農場と接触がある

場合又は臨床疑いがある場合に検査が実施された。結果、2025年3月5日から同年7月20日までの間に、全国で、延べ6,753施設の飼養動物から採取された75,746検体(うち、2,443施設の68,756検体は保護区域、監視区域又は追加制限区域に所在する施設から採取)がPCRによって検査され、発生施設5件から採取された51検体を除き、全ての検体について陰性が確認された。

野生動物(シカ科動物及び野生イノシシ)についても、2025年3月5日から同年7月20日までの間に、全国で7,873頭(うち、保護区域、監視区域及び追加制限区域は6,601頭)がPCRによって検査され、全て陰性が確認された。

3. 疫学調査結果

ハンガリーでの発生5件から分離されたFMDウイルスは全て、単一の株に由来することが示され、ハンガリー国内への1回のウイルス侵入により、複数の農場で連鎖的に発生したことが確認された。ウイルスの血清型はO型であり、2018年にパキスタンで確認された株と最も近縁であることが確認された。しかしながら、感染経路は明確に特定されておらず、大規模酪農場では人員、車両(集乳車、家畜死体・廃棄物運搬車、飼料運搬車など)、資材の出入りが多く、これら複数のリスク因子が重なる中で、ウイルスが持ち込まれた可能性があると考えられている。

IV. まとめ

2025年3月から4月にかけて、ハンガリー北西部のジェル・モション・ショプロン県において、同国で約50年ぶりとなるFMDの発生が計5件確認された。発生後遅滞なく、法令に基づき、FMDの監視体制及び防疫対策が実施された。また、全国における飼養感受性動物のサーベイランス及び制限区域における野生動物に対するサーベイランスの結果、新たなFMD発生は確認されなかった。ハンガリーは、2025年6月6日に全ての制限区域解除がEUによって承認され、2025年9月10日にWOAHによって「ワクチン非接種FMD清浄地域」のステータス回復が承認された。

以上のことから、FMD発生の早期検知や感受性動物への侵入防止に向けた取組が引き続き維持・徹底される限り、ハンガリーをFMDの清浄国として再認定し、同国からの偶蹄類動物肉等の輸入を再開しても、FMDが我が国へ侵入するリスクは無視できると考えられた。

(以上)

図1. ハンガリー-FMD の発生場所及び制限区域の設定場所

